

2022年度 八洲学園高等学校 第三者評価

第三者評価

氏名(ふりがな)

林尻 悟(はやしじり さとる)

経歴

公認心理師/臨床発達心理士

一般社団法人 障がい者・高齢者じりつ支援機構

共同代表(代表理事)

評価日時:2023年4月25日

【2022年度八洲学園高等学校自己評価報告書(結果)の評価】

【講 評】

教育理念に基づいた教育目標の達成を目指し、学校内外の資源や組織を活用して学習活動の成果について検証し、強みや弱みを明らかにして学校全体の底上げを狙っている点について、特に意識をした取り組みがされていたと考えます。教育課程に於いては、教科間の連携を増やし、各々の授業の見学・授業の評価をして連携の機会を増やし共通理解が出来ていた点は特に評価されるところです。

また情報公開では、ホームページに最新情報を公開しており、理念にあるように「すべての人に学ぶことの喜びや楽しさを知ってもらい、人生を豊かにし、幸せになってもらいたい」という思いが、保護者や、入学希望者、近隣中学、高等学校教職員など希望があれば積極的に授業公開を行っていることで、可能性を広げていくイメージが出来ます。

教育内容については、新型コロナウイルス感染症による様々な制約がある中での教職員の方々のオンラインによる学習指導や生徒の実態に合わせて、指導方法など学習指導内容の充実を図っていた事について努力や苦勞に敬意を表したいと思います。また、引き続き有効かつ効率よく機能するよう努力されていることも伝わる内容です。

新型コロナウイルス感染症は、2022年度に於いて6波、7波、8波と影響があった中、先が読めない混乱する状況下で、取分け学校現場への影響は甚大であり、様々な対応を強いられる状況であったこと、感染症対策でオンラインでの学校行事や特別活動、オンライン授業への取り組みなど生徒への指導は大変なご苦勞であったと思われます。その様な状況の中で学校運営や、教育内容が概ね達成できているとの自己評価も高く、評価されるのも頷ける内容と考えます。

生徒指導や、生徒支援についても、新型コロナウイルス感染症の中に於いて明確な手法や基準が確立されていない中で、生徒や保護者との連絡・連携を定期的に行い、教職員や関係者との連携や報告の徹底がなされていたことが達成評価につながった点は努力の賜物ではないでしょうか。

評価は高かったものの、教育内容の情報教育、特に「情報発信に伴う情報のモラル面の教育に取り組んでいる」がさらに強化されることが望まれ、今後はさらに課題となると想像します。

情報の本質を見抜くため情報リテラシー教育は必要な教育であり、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後にもオンラインでの活動や利用が増える事を踏まえ、更なる強化は必要だと考えます。

AIツールなどの利用についても、学校としての検討も必要になるのではないのでしょうか。

教育目的である「社会への適応力を身につける」「生きる力を育む」を掲げる、八洲学園高等学校の生徒指導・生徒支援に今後も期待しています。